

令和7年度 とうきょうすくわくプログラム 活動報告書 学校法人慈光学園 銀の鈴幼稚園 1538411

1. 活動のテーマ 世界ってなあに？

テーマ設定の理由

子ども達は生活の中で海外のニュースや画像などを目にしている。グローバル化が進む世の中で、「世界とは何か」「自分たちと同じ世界の子ども達はどのような暮らしをしているのか」「どのような衣服や食べ物やあそびがあるのか」等、世界の文化との違いを学び興味関心を持ち、自分の住む日本のくらしを改めて感じ、多様で豊かな世界観の基礎を育むために「世界ってなあに」のテーマを設定しました。

2. 活動スケジュールと概要

2025/10月17日(金)	せかいタッチの会/ホール	1回目	せかいタッチプログラムの説明
10月22日(水)	せかいタッチの会/ホール	2回目	シンガポールを知ろう・振り返りのぬりえ
10月27日(月)	せかいタッチの会/ホール	3回目	日本を知ろう・せかいタッチプログラム
11月4日(火)	せかいタッチの会/はなぐみ		英語の手遊び
11月6日(木)	オンライン交流会体験		シンガポールの子供達とのオンライン交流会
2026/1月14日(水)	インドコーナー作り/ホール		写真や図巻並べ・地球儀・地図コーナー
1月21日(水)	インドコーナー作り/ホール		インドの衣装 サリー飾り追加
2月2日(月)	インドコーナー作り/ホール		インドのスパイス 3種追加
2月13日(金)	せかいタッチの会/ホール	4回目	インドを知ろう・せかいタッチプログラム
2月25日(水)	オンライン交流会		インドの子供達とのオンライン交流会
3月2日(月)	インドコーナーかたづけ		

2025/10月～2026/2月 タブレットによる自由検索、せかいタッチプログラムであそぶ。

3. 活動のために準備した素材・道具・環境設定

仕様教材や道具

1. 「せかいタッチ」交流プログラム デジタル教材・タブレット3台
2. インドコーナー(自然、動物、食べ物の写真・地球儀・地図・図鑑・絵本・インド料理のスパイス・インドの衣装)
3. プロジェクター & スクリーン、Youtube 映像など

環境設定

1. デジタル教材「せかいタッチ」は、インドの国の文化、歌、手遊び、ゲームなどが画面上で紹介されているので、幼児が自由にクラス内でタブレットで調べて体験できるようにしました。
2. 年長、年中クラスで「せかいたちの会」を開催し、みんなでインドの知識を得たり、楽しかったインドゲームやヨガポーズなどを伝え合い、一緒にやってみて、交流会への意欲や関心を高めるようにしました。
3. ホールにインドコーナーを設け、子ども達がインドについて学べるものに自由に接することができるようにし、「せかいたちの会」でコーナー体験感想を出し合いました。
4. インドのお友達とのオンライン体験交流会をホールスクリーン前で行い、自分が思っていたインドの世界をふくらませました。。今まで調べたり遊んだりしたプログラムをオンラインでも一緒に体験しました。
5. 「せかいたち」の会でインドのことで思ったこと出し合う場を作りました。

4. 探究活動の実績



せかいタッチの会・日本を知ろう



タブレット自由検索



シンガポール交流会



インドコーナー



インドコーナー



インドコーナー



インドコーナ サリー衣装追加



サリー衣装



インドコーナー



インドコーナー・スパイス体験



せかいタッチの会・インドを知ろう



インド交流会



せかいタッチプログラムによる全体会「せかいタッチの会」と、個別に体験、探求できるインドコーナー作りやクラス内でのタブレットプログラムで、インド交流会までの関心や興味を引き出すよう環境を作りました。

4. ふりかえり

「時計の時間が違う」(時差)、「サリーが涼そうだったけど意外と暖かい」(文化体験)、「あいさつの言葉が違うけど、こんにちはの気持ちは何かおんなじ」(言葉の違い)、「同じ手遊び歌が英語になると手のリズム違う」(言葉の違い)、「インドに行ってみたい」(興味)、「カレーの粉なのに一つひとつだとカレーの匂いはしない」(違い)、「私が行ったことのある外国とは違う感じ」(違い)など、インド交流会に至るまでの探求は子ども達に様々な体験と感想を生み出しました。ジャンケンも英語だと難しい、冬のオリンピックにはシンガポールやインドの国旗があまりなかった、せかいタッチプログラムで「ひなまつり」と「ナバトトリ」というインドのお祭りが、女の子のためのお祭りで一緒！等と交流会後もインドへの興味や関心が続いたことは、子ども達の発見の喜びからくる持続性だろうと、先生たちも驚きました。

世界には色々な国や文化、人々がいるという多様性を感じられた期間だと思います。もう少し身近な国のことや、交流までの期間が長い方が、子ども達の興味が強くなるのではないかと思います。